科目名	AI基礎ＩA				
単位数	2 単位	時間数	30 時間	担当者	和田 直也
実施年度	2026 年度	実施時期	前期	担当者実務経験	企業にて医療情報システムの導入支援や技術サポート業務に従事
対象学科・学年	AI＆診療情報管理士科　1 年				
授業概要	AIの基本概念やプロンプトの基礎を学び、ノーコードツール（Dify）によるAIアプリ開発を通じて変数や論理的思考を養います。また、ディベートを通してAI利用の倫理的課題や信頼性を多角的に考察し、ツール操作にとどまらない責任あるAI活用の基礎的なリテラシーを身につけます。				
授業形態	選択・必須：	必須	主な授業形態 ：	講義	

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○					AIの基本概念や主要モデルの仕組みを理解し、他者に適切に説明できる。
	○				生成AIへのプロンプト指示を実践し、出力結果を批判的に検証・評価できる。
	○				ノーコードツールを用いて変数の概念を理解し、基礎的なAIアプリを構築できる。
	○				ディベートを通じて、AI利用における倫理的配慮や社会的課題を多角的に考察できる。

テキスト・教材 参考図書

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	オリエンテーション	
2	ChatGPT演習①	生成AIが使用できる用意をしておくこと
3	ChatGPT演習②	生成AIが使用できる用意をしておくこと
4	ディベート①（準備）	生成AIが使用できる用意をしておくこと
5	ディベート①（本番）	ディベートの準備を完了させて授業に臨むこと
6	ChatGPT演習③	生成AIが使用できる用意をしておくこと
7	ChatGPT演習④	生成AIが使用できる用意をしておくこと
8	Dify演習①	生成AIが使用できる用意をしておくこと
9	Dify演習②	生成AIが使用できる用意をしておくこと
10	ディベート②（準備）	生成AIが使用できる用意をしておくこと
11	ディベート②（本番）	ディベートの準備を完了させて授業に臨むこと
12	Dify演習③	生成AIが使用できる用意をしておくこと
13	Dify演習④	生成AIが使用できる用意をしておくこと
14	Dify演習⑤	生成AIが使用できる用意をしておくこと
15	まとめ	事前課題を準備したうえで授業に臨むこと

評価方法

各回の授業内で課した課題の提出状況、内容に加え、生成AI使用時のプロンプトの試行錯誤や対話プロセスの工夫をもとに評価する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
課題レポート・作成物評価		○				40	%
ディベートでの姿勢・発言の論理性		○		○		30	%
生成AIとのチャット履歴	○	○				30	%
							%

履修上の注意

この科目では基本的に授業を実施せず、演習課題を通じて生成AIの活用方法や注意点を学習します。
ただし、演習内でも必要となる内容については、都度、座学形式の授業を実施します。

科目名	AI基礎ＩB				
単位数	2 単位	時間数	30 時間	担当者	和田 直也
実施年度	2026 年度	実施時期	後期	担当者実務経験	企業にて医療情報システムの導入支援や技術サポート業務に従事
対象学科・学年	AI＆診療情報管理士科　1 年				
授業概要	AI基礎ＩAで培った論理的思考を基に、Pythonを用いたプログラミング基礎からAPI連携、データの可視化を実践的に学びます。さらに機械学習の基礎としてデータ分析を体験するとともに、ディベートを通じてAIの社会実装における課題を議論し、次年度のデータ前処理や実務的な学びへの円滑な接続を図ります。				
授業形態	選択・必須:	必須	主な授業形態 ：	講義	

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				Pythonの基本構文や制御構造を理解し、目的に応じたプログラムを記述できる。
	○				API連携やスクレイピングを活用して外部データを取得し、適切に可視化できる。
	○				機械学習の基礎的な予測モデルを構築し、データ分析の初歩的なプロセスを実践できる。
	○				ディベートを通じて、AIの社会実装に伴う課題について根拠を持ち議論できる。

テキスト・教材 参考図書

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	オリエンテーション	Googleアカウントを使用するので用意しておくこと
2	Python演習①	生成AIが使用できる用意をしておくこと
3	Python演習②	生成AIが使用できる用意をしておくこと
4	ディベート③（準備）	生成AIが使用できる用意をしておくこと
5	ディベート③（本番）	ディベートの準備を完了させて授業に臨むこと
6	Python演習③	生成AIが使用できる用意をしておくこと
7	Python演習④	生成AIが使用できる用意をしておくこと
8	Python演習⑤	生成AIが使用できる用意をしておくこと
9	Python演習⑥	生成AIが使用できる用意をしておくこと
10	ディベート④（準備）	生成AIが使用できる用意をしておくこと
11	ディベート④（本番）	ディベートの準備を完了させて授業に臨むこと
12	Python演習⑦	生成AIが使用できる用意をしておくこと
13	Python演習⑧	生成AIが使用できる用意をしておくこと
14	Python演習⑨	生成AIが使用できる用意をしておくこと
15	Python演習⑩	生成AIが使用できる用意をしておくこと

評価方法

各回の授業内で課した課題の提出状況、内容に加え、生成AI使用時のプロンプトの試行錯誤や対話プロセスの工夫をもとに評価する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題レポート・作成物評価		○				40 %
ディベートでの姿勢・発言の論理性		○				30 %
生成AIとのチャット履歴		○				30 %
						%

履修上の注意

この科目では基本的に授業を実施せず、演習課題を通じて生成AIの活用方法や注意点を学習します。
ただし、演習内でも必要となる内容については、都度、座学形式の授業を実施します。

科目名	AI基礎Ⅱ				
単位数	2 単位	時間数	30 時間	担当者	和田 直也
実施年度	2026 年度	実施時期	前期	担当者実務経験	企業にて医療情報システムの導入支援や技術サポート業務に従事
対象学科・学年	AI＆診療情報管理士科　2 年				
授業概要	医療現場のDX推進に不可欠な「データ活用力」を養うため、AI分析の前段階となる「データ前処理」を学ぶ。生成AIを相棒としてPythonコードを作成させ、診療データ等の欠損処理・整形・統合を行う。AI出力結果の正誤を専門知識で判定し、実務で使えるデータへ加工する技術とリテラシーの習得を目指す。				
授業形態	選択・必須:	必須	主な授業形態 :	講義	

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				生成AIに対し的確な指示（プロンプト）を与え、目的のデータ処理を行うコードを作成・修正できる。
	○				医療データ特有の汚れ（表記ゆれ・欠損）を理解し、統計解析可能な形式へ整形できる。
	○				AIが処理した結果を鵜呑みにせず、元データと突き合わせて論理的に検証・説明できる。
	○				演習を通じ、データ整備がAI活用や業務効率化にどう繋がるか、具体的な適用シーンを見出せる。

テキスト・教材 参考図書

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	DXとデータ前処理の重要性	
2	データの健康診断（基本統計量）	
3	データの視覚化（可視化）	
4	欠損値の処理（穴埋め）	
5	表記ゆれの統一（名寄せ）	
6	外れ値・異常値の検出	
7	重複データの排除	
8	カテゴリデータの数値化	
9	日時データの処理	
10	データの結合（マージ）	
11	データの集約（グルーピング）	
12	【実践】アンケートデータの構造化	第1回から第11回までの内容を復習して授業に臨むこと。
13	【実践】電子カルテデータの整備	第1回から第11回までの内容を復習して授業に臨むこと。
14	総合課題	第1回から第11回までの内容を復習して授業に臨むこと。
15	振り返りとケーススタディ	

評価方法

各回の授業内で課した課題の提出状況、内容に加え、生成AI使用時のプロンプトの試行錯誤や対話プロセスの工夫をもとに評価する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
演習課題の達成度と正確性	○	○				40 %
プロンプト作成と検証プロセス		○				30 %
総合課題		○				20 %
振り返りレポート・受講態度		○		○		10 %

履修上の注意

この科目では生成AIを活用しながら、Google Colaboratoryを使用したPythonのプログラミングを扱います。
事前にご自身のGoogleアカウントで環境設定をしておくこと。